
無機質の博物館

P E T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無機質の博物館

【Nコード】

N6371G

【作者名】

PET

【あらすじ】

詩をてきとくに作ってみました。

管理者は消え、夜の新宿に無関心がとりついた
人にまぎれる心地よさは、不協和音に近い落ち着きだ
日常の憂いがさまよう道は、目的を失った未来のように
出口を失った迷路のように、夢と無念に包まれる

ビルの明かりに誘われて、欲望を誰かがなぞりだす
眠りを忘れた女のように、恐れを知らない兵士のように
一斉に影がうごめいて、僕はそれにしがった
置き去りにされた子供時代が、やってくるような気がしてたんだ
退屈にくたびれたまま、なんとなくケン力を見続けた

2

帰宅しても、することが何も無い
一人の寂しさにじっと声押し殺したら、神経の場所が分かるほど、
静かになった
・・・時間をため息が刻んでいるようだ 男のうめき声がアルコー
ルに溶けている

気づくと目の前に、街の光が広がっていた
地下の繁栄のイメージが、星で作られていくように
最後は斜にまばゆく彩りで、輪郭を縁取っただけの石膏みたいにな
って

僕の意識を揺らした

刹那の幻想に集う、欲望の待ち人たちを 初めての理想にとまどう、
一途な若者の未来を
神々は見捨ててしまったのか
眠りを妨げた代償は何なのか 天使は一度の苦笑い 悪魔は当然の
知らんぷり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6371g/>

無機質の博物館

2010年11月8日08時33分発行